

読売新聞 きょう（8月9日）のイチ押し

1面 内閣支持下落57% 旧統一教会「説明不十分」87%

読売新聞社は5～7日に全国世論調査を実施しました。岸田内閣の支持率は57%で、参院選直後に行った前回（7月11～12日調査）の65%から8ポイント下落しました。不支持率は32%（前回24%）でした。

- ★ 自民党などの複数の国会議員が「世界平和統一家庭連合（旧統一教会）」から選挙での支援や寄付を受けていたことに関して、政党や議員が説明責任を果たしていると「思わない」は87%に達しました。自民支持層でも「思わない」が82%に上りました。
- ★ 政府が安倍晋三・元首相の国葬の実施を決めたことについては、「評価する」49%、「評価しない」46%と、世論が二分していました。

社会面 連載「凶弾～浮かんだ背景」⑤ 政治家「お墨付き」憤り

安倍晋三・元首相が銃撃され死亡した事件は発生から1か月を迎えました。事件の背景、社会が問われたものを考える連載をスタートしました。

- ★ 連載⑤は、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）と政界との関係をテーマに掲げました。
- ★ 山上容疑者は3年前から、旧統一教会と政治家のつながりを注視していたことが、SNSへの投稿からうかがえます。犯罪心理学の専門家は、「政治家が旧統一教会にお墨付きを与えているという憤りが動機の背景にあった可能性がある」と指摘しています。
- ★ 28ページに、銃撃事件1か月の特別面も掲載。銃撃までの容疑者の3日間の足取り、安倍氏殺害を示唆した手紙全文を紹介しています。

他紙と比べて

認知症になっても、ポジティブ（前向き、積極的）に生きるヒントや取り組みを紹介する企画「認知症ポジティブ部」。毎月第2火曜日の朝刊・安心の設計面に掲載中です。本日は、認知症になった人の相談に、認知症の人が答える新しい取り組みを採り上げました。当事者同士だからこそ、理解し寄り添えることがあるそうです。